

一般財団法人住友病院の歴史

住友病院 院長 金 倉 讓

【当院について】

当院は1921（大正10）年7月に此花区恩貴島に「大阪住友病院」として、住友グループ各社の従業員だけでなく、広く一般の方々にも質の高い診療を提供することを目的として、開設されたのが始まりです。その後、第二次世界大戦時の大阪空襲による戦災被害などで、3度の移転を経て、2000（平成12）年9月からは現在地のあみだ池筋沿いに新病院を建設し、21世紀に相応しい施設と人材を擁した新しい総合病院に生まれ変わり、今日に至っています。

当院のスタッフ一同はこのような98年に亘る伝統をもとに、「患者様に信頼されるやさしい医療・安全な医療」と「高度の先進医療」の両立を目指して日夜努力を重ねています。近年の医学・医療の発展はめざましいものではありますが、その中心はコンピュータに頼る医療機器や遺伝子診療など「物」を中心

とした考え方で、病気をもった「ひと」に接する時に最も大切な「心」を置き去りにしがちになることが、医療ミスなど多くの問題につながっていくものと思っています。当院は、これまで患者様にやさしさを重視した医療を行っているという評価を受けてきましたが、引き続き患者様の視点に立った「心」の医療を進めていきたいと考えています。

また、当院は高度の専門医療を推進していますが、同時に各診療科間、各職種間の連携を最も大切なものとして、一つひとつの病気を治療するだけではなく、病気を持っている「ひと」に多面的に対応できるチームワークの医療を特長としています。

【地域医療連携の推進】

地域医療の実践には、医療連携と救急医療が最も重要と考え、当院では「断らない医療」をスローガンに迅速かつ丁寧な医療に取り組んでいます。

当院の特徴として、大阪府下をはじめ全国各地から受診のため来院頂いているという実績があります。来院された患者様には、高度専門医療を提供し、集中的な治療を行ったあとも、長

期的な支援を踏まえ医療を受けて頂くことを大切に考えております。その為に必要に応じ他の医療機関や、施設、在宅医療、介護を踏まえ関係機関と密に連携を取り多職種・他業種でのチーム医療に取り組んでいます。

救急医療については、2018年(平成30年)に救急室を多くの患者様を診療出来るよう拡張し、今年度からは医師の増員も図り体制を強化いたしました。地域の救急医療に貢献できるようにスタッフ一同取り組んでおります。

【健康経営の推進】

昨秋に健康経営宣言を発表し、職員の健康維持と連携する各社の健康経営を支援する「健康経営支援センター」を組織化し病院の社会貢献事業として進めております。健康経営とは企業が健康に配慮した環境構築を行うことにより「職員の健康」を増進し、それを経営的な視点でとらえて、企業の業績向上や生産性の向上につなげることであり、病院においてはこれによって良質な医療の提供を実現するという考え方です。

当院は「職員」及び「職員の心身の健康」を病院の最も大切な財産であるという考えのもと、職員の心身の健康保持・増進に向けた取組を積極的に支援しております。また、医療及び予防医療等の提供を通じて、健康で活気に満ちた地域や職場づくりにも貢献してまいります。

開設

1921年(大正10年)

許可病床数

499床

診療科目

一般内科、血液内科、内分泌代謝内科、腎臓・高血圧内科、膠原病・リウマチ内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、脳神経内科、小児科、メンタルヘルス科、外科(消化器外科・乳腺外科・一般外科)、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、整形外科・人工関節センター・脊椎センター・高齢者骨折センター、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、皮膚科、泌尿器科・結石治療室、形成外科、口腔・顎センター(歯科)、麻酔科、放射線診断科、放射線治療科、リハビリテーション科、救急科